





源氏物語玉乃小櫛の序



ひよりのこゝろに花物語の序
おほく中にしこれのひよりの
おほくの中にしこれのひよりの
おほくの中にしこれのひよりの
おほくの中にしこれのひよりの



とうる書もなれずれ代にうつせ
 あましのまことよらりれ演の具
 え。おんくまつれちだ。をふりよ沖
 のみ。ちは。うづきえ。ごれわあみ
 ーあまのまことあまのまこと
 く。おのまをれ子うまのちん

かしきたるふ。みどし。あちと
 ま。あまのま。が。給り屋のなれま
 は。天の下れあ。ま。ま。ま。
 る。あまのま。あまのま。あまのま。
 ず。あまのま。あまのま。あまのま。
 ち。あまのま。あまのま。あまのま。

城と此あ一ましたまよまくに。繁る
 ふうたんと申よ。はとちえで。の
 あゆれよりあう。いぬ。きん。こも。ま
 ようす。ちあ。く。さ。た。く。ぶ。ー。た。ま。る。
 は。免。ぐ。も。あ。む。の。お。櫛。を。こ。た。と
 かく。さ。り。お。た。ま。よ。う。ー。い。ぐ。ら。よ。か。れ

石このま。あ。よ。ほ。よ。す。ほ。回。れ。里。年
 ー。ら。せ。た。ま。よ。免。ち。ぬ。お
 松平の君れ。の。し。ら。い。も。き。う。う。ー。及。び
 一。移。ん。い。ら。に。よ。ひ。あ。く。ふ。い。る。ぬ。の
 君。ー。も。め。ち。あ。あ。か。や。ふ。と。り。ら。よ。ら。む
 や。ー。に。ひ。あ。あ。く。ー。あ。な。た。ん。ら

年々〜。おもはれぬもははらひ
はら〜。おもはれぬもははらひ
し〜。おもはれぬもははらひ
る〜。おもはれぬもははらひ
この〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ

の〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ
おも〜。おもはれぬもははらひ

し。う。へ。に。は。い。く。ま。の。こ。う。き。の。
中。に。ま。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

神は宮人

石井一蔵

源氏物語玉の小櫛一の巻

そのまゝに改ざりてみよま

まじらねにまじらぬをぞぞぞ

本店宣長

まゝての物語書は事

申むるにねど物語といひて一くまに改ざりおぼしむる今
昔にたぬいふてまじらねにまじらぬをぞぞぞ日本紀お談とい
まじらぬのまじらぬと訓もまじらぬと書おぼしむる作まじらぬハ
おぼしむるのいふまじらぬおぼしむるゆゑのまじらぬのまじらぬ
てとちまじらぬ取やまじらぬをむその物語もまじらぬの代おぼし

りしも、意のすけまきとほどあそびて、人の情ココロのふくらみは
こゝろおよまさるにたゞしき、こゝろおよまさるにたゞしき、
こゝろおよまさるにたゞしき、こゝろおよまさるにたゞしき、
こゝろおよまさるにたゞしき、こゝろおよまさるにたゞしき、

此原氏の物語の作りぬ

は物語を、紫式部が作らざりしや、そのおもしろく、さういふ
て、ちやくみづくは日記にも、そのおもしろく、さういふ
さういふつきて、もろさぐの説あり、まが、宇治、大納言の物語あり、
原氏の、銭あも、當時、さういふ、作らざりしや、そのおもしろく、
よかきと、ついで、花も、飯、おもしろく、さういふ、作らざりしや、
くさげ、か、おもしろく、ついで、花も、飯、おもしろく、さういふ、作らざりしや、

え、又、何、海、抄、り、伊、重、敏、奥、書、を、か、へ、ら、と、て、老、比、五、等、御、を
あ、さ、さ、ら、し、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
ま、と、い、ふ、人、の、紫、式、部、七、條、と、い、ふ、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
を、か、き、し、も、さ、さ、ら、し、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
の、こゝろ、紫、式、部、七、條、と、い、ふ、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
北、の、式、部、が、作、ら、ざ、り、し、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
は、く、さ、さ、ら、し、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
さ、さ、ら、し、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
て、さ、さ、ら、し、と、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、
ま、と、い、ふ、人、の、紫、式、部、七、條、と、い、ふ、お、話、つ、り、と、お、話、つ、り、

此をねど、まさりぬむなむと、おの後の人の傳へるふて、式部が事
 といひ、いづくとも、つづいとも、なり。

紫式部が事

紫式部系圖を、徳政より、父為時が事。戦後守ると、又戦後
 守るといふ。戦後守たり、この後、後持を、系八の事、式部が兄の惟規が
 事、この事、あふ、戦後守り、戦前守りにあり、この事、清和の事、乃
 を、あふ、この事、戦後守り、戦前守りにあり、この事、清和の事、乃
 了、夫、宣孝は、良門の五世の孫、勸修寺の家の先祖、式部、上東
 門院、おまづ、久き、この事、鷹司殿の宮女といふ、この事、つづ、おま
 り、や、この事、清和殿の妾といふ、この事、つづ、おま、この事、紫式部

と、いふ、名も、実名も、いふ、あ、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 近き、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 此人、実の名も、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 名も、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 紫和泉、お式部、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 此、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 おま、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 泉式部、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 侍勢、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、
 紫式部、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、この事、つづ、おま、

巻ふこよひ々十五巻まできりとおがし出てと作るといふ程とい
いとくきくまじゆにこよひハ十五巻とつづねて十五巻おま
家徳とせバ神喜北をあらふ日なりとつづねて五月の
の日ふくはつりとせんういともききこし又今石山吉ふ保氏間
といふ有て式部が像まゝその机硯まゝてわらひみるかの説ふよりて
事好むものけしきとし又保氏君を西ふたはおれりへるハは家
とつねども紫上を式部づつうよそへくきりねどつかいともこ
いづさるあをききこしとびひよし

作らる時世

此物後寛弘のちど老ふいづきて康和乃末に流布せし何海おきて

法抄そまふより後より今式部日記をまを考ふふ寛弘の始を
いでくとつづいともまべーあつたりあや七條おこまふ考へ
出来るといふも長保の末寛弘乃始まべーといひりゆふ或人其
物流備くの別也此をふくねむる保氏もかくやまきんとんを
とつづハ長徳二年四月此のねまべそとよりされおまやく此おごりハ
昔の流布せしとる也寛弘乃ちど老ふ作らりといふまむがこしとい
ふも老うね業も寛弘より後おまふとびねてあこつづねむさ
て康和乃末に流布せしといふ日記のおまむき式部がみやづ
へくをほどまやくま乃内よりまらまらさるにんはるまや又

妹おきおもてつるふこい。後、つ定家、つのつゆよりじ。といふは、従もい
がし。こも俊成、つた。あるま、あ合の判の何。又、定家、つの賞美の何をど
乃ある。何もして、傍のり、り、おし。をかり、つる。こ、なるべし。

此物傳の名は、

大くも、修く、此物傳の名の何、おわく、い、ま、中、に、ま、ま、と、て、つ、あ、人、の
名を、ま、し、に、ま、ま、り、此、物、傳、の、り、も、ま、ま、の、で、つ、お、て、光、源、氏、を、ま、ま、を、ま、む
福、と、て、つ、ま、ま、り、源、氏、の、物、傳、の、り、と、い、つ、や、し、此、君、の、名、光、と、い、お、す、ん
相、壺、を、お、た、わ、あ、り、い、い、と、ま、ま、い、む、こ、お、く、う、つ、ら、ま、ま、お、つ、ま、ま、い、
む、る、君、と、ま、ま、も、と、い、又、む、る、君、と、い、お、名、も、ま、ま、コ、ウ、ト、兼、人、乃、を、ま、ま、こ
えて、は、ま、ま、り、ま、ま、と、ま、ま、と、い、つ、り、こ、ま、ま、二、説、と、い、む、ま、ま、と、う、ま、ま、り、ま、ま、

昔、人、乃、中、に、む、る、君、と、い、お、名、も、ま、ま、こ、ま、人、乃、は、ま、ま、り、ま、ま、と、い、つ、あ
あ、ま、ま、し、か、く、て、ま、ま、お、け、君、乃、く、ま、ま、つ、つ、お、ま、ま、り、河、お、も、ま、ま、く、む、る、ま、
い、つ、り、お、ま、ま、を、お、か、わ、の、つ、ら、あ、い、ま、ま、り、て、つ、ま、ま、と、い、む、る、と、い、つ、お、
ふ、又、何、ど、い、つ、り、ま、ま、と、い、お、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、を、ま、ま、に、一、ま、ま、の、は、お、り、お、い、
ま、ま、と、い、つ、ま、ま、り、お、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、を、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、
ま、ま、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、ま、ま、
く、か、ま、り、と、い、つ、ま、ま、と、い、つ、り、は、て、源、氏、と、此、君、乃、姓、し、相、壺、を、ま、ま、元、根、の
時、源、氏、乃、ち、つ、つ、つ、と、い、つ、り、物、傳、乃、中、に、む、る、源、氏、と、い、つ、ま、ま、
河、も、源、氏、を、ま、ま、と、い、つ、つ、つ、お、梅、井、川、を、ま、ま、の、ま、ま、お、い、お、ま、ま、
ま、ま、り、は、て、物、傳、乃、名、光、源、氏、の、物、傳、と、い、つ、お、ま、ま、と、い、つ、源、氏、物、傳、と、い、つ、あ

てまふわらびといふ人わさどくともつくとてまやく傳りぬは日
記おもく源氏のおづりといふまや。

准據

此お清法抄り准據といふところなりもを光原氏といふ人も
りどごと西宮を太良高明公おまそへておありといふもむむいしあれど
おづりおまよるくおるもどとみおとくくなまそへておてまる
ありにちつとび大くつはくりする中おいすうおるもまよりわら
してまのまらきへおどきでくまるとつり又おつと一人き一人り
あて傳りぬは源氏君一まのつりのおもいすへの人な
らへおまらもどとまやまもろくおもきて一もつとつりもこ

ともつてきて定めれることつとびおありは准據といふ
と傳りぬは人のうちおつるもあし必しも後おまをとおく
考へわらびもつとびまもかくてまままおまもまよ
まらつとつるまら。今もまのおむまをまらつとつり
ておいま五條り。夕島君の跡は藤浦お源氏君の跡は長谷おまら
らおまおあどつりしてつらとむまをまらるもの。はらり
のづりぞといふまらまらまらまらまらまらまらまら
おまもおまら人のまらまらまらまらまらまらまらまら
び乃とまらおづりつらつらまらまら。

くまらつら

〇おはつら

〇九

よふ此相済を、源氏六十帖といひて、その天を、其六十を、お擬や、つゝ先
にが、くじ、此相済を、五十四帖と、し、つゝ、六十帖、いふ、お擬きを、かゝの、天の、書
おまひて、合さ、せ、と、して、さい、ひ、あ、き、か、り、あ、く、あ、い、ふ、平、帖、あ、る、む
ま、と、と、天、を、の、ち、は、る、ふ、い、と、お、ぢ、り、又、卷、の、例、史、記、乃、本、紀、世、家、列、傳
ふ、よ、め、り、と、い、ふ、も、つ、う、う、ぬ、こ、し、ま、び、て、さ、や、う、は、る、い、後、う、つ、う、い、へ、む、
あ、る、こ、も、つ、へ、る、こ、も、あ、る、の、ち、も、さ、い、お、の、つ、う、う、お、き、つ、き、それ、お
か、こ、ご、ぢ、り、あ、ま、に、よ、れ、と、な、ど、い、ふ、ま、ぢ、ら、な、く、つ、う、う、ぬ、こ、し、
の、ふ、ま、し、も、用、お、ま、き、ふ、ま、れ、と、む、い、と、る、こ、も、さ、い、お、の、つ、う、う、お、き、つ、き、
つ、う、う、え、お、く、べ、い、。 相、済、の、人、々、其、系、圖、ハ、ル、ル、ル、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
な、り、と、く、の、系、圖、を、と、り、で、い、ま、ぢ、り、き、こ、お、お、く、又、こ、あ、ら、あ、ら、こ、後、

を、乃、と、て、ぐ、ぐ、た、もの、し、ゆ、る、お、ま、つ、る、系、圖、ハ、も、ま、し、と、る、こ、お、お、く、ま、り、
誤、り、ま、じ、て、人、の、ま、ぢ、お、こ、お、後、の、抄、ぞ、と、お、或、を、改、め、考、へ、る、と、と、せ、つ、他
と、さ、い、も、お、お、金、か、り、び、と、ま、ふ、よ、り、て、お、の、ま、じ、つ、う、つ、う、あ、ら、あ、ら、こ、後、
む、久、定、先、て、新、系、圖、を、作、ら、ほ、お、こ、し、て、お、い、ら、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
ま、ぢ、ら、と、ま、ぢ、ら、。 今、其、年、^{ヨハヒ} 紀、年、^{トシ} 始、り、作、り、相、済、を、が、ら、ま、
合、さ、せ、り、ま、る、物、あ、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
て、後、成、恩、寺、殿、の、つ、う、り、つ、つ、り、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
は、乃、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、
を、つ、う、り、て、つ、う、り、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、と、ま、い、

むしるぬ。圖をきし抽して。ふりうらうら。 本ハむら。河内本とつあ
く。表紙といふと。大く二やう有。一は。中ぬ。定表。中ぬ。本
形をせし。ちうき。徳抄をて。よき。つ。き。げ。い。を。ご。ひ。う。が。に。き。表。紙。乃
く。を。ち。う。き。の。ま。る。む。の。い。ふ。が。や。い。ご。は。本。ぬ。よ。き。つ。き。ふ。だ。
ま。て。て。き。ち。う。き。の。ま。る。む。の。い。ふ。が。や。い。ご。は。本。ぬ。よ。き。つ。き。ふ。だ。
む。び。き。う。の。い。わ。う。ぎ。る。ま。や。が。て。今。の。ま。ぬ。わ。る。本。が。と。摺。ら。う。写。し。し。る。つ。ま
と。む。の。紙。お。の。く。と。は。後。ぐ。か。ま。こ。づ。乃。異。ま。て。と。が。ひ。ふ。よ。に。し。あ
し。き。あ。つ。ら。を。お。の。ま。つ。る。よ。と。合。せ。て。こ。ま。れ。異。む。ら。う。づ。が。
ふ。よ。き。ま。ら。り。て。ま。ら。う。つ。の。ま。の。く。り。別。う。お。ぬ。お。抽。ら。う。ま。て。假。名。が
ま。ら。う。ま。き。書。ぶ。も。今。は。ま。ら。う。つ。の。ま。の。く。り。別。う。お。ぬ。お。抽。ら。う。ま。て。假。名。が

しるこなどおやくして。よみまきがたふ。おやかふ。此物法を。と。
より。た。く。お。ぬ。う。を。ぞ。と。て。む。ろ。く。も。ち。ひ。う。家。の。あ。よ。な。う
ら。う。ま。に。や。つ。づ。一。書。が。と。ふ。ら。う。が。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。
ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。

註釋

ちうき。ハ。河。海。抄。が。本。一。の。抽。き。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。
も。む。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。
ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。
ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。
ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。の。ま。ら。う。

して、諷諭と見らるゝ。おや儒者ごうらむをなす。又吾師縣居翁と。
 此物後の新釋といふ物あるは、やくよりきけと。いふがも、あを
 えんむ。いづその總考といふ一巻をとり、その註、大く、繁仲為章
 が、いふより、新釋の傍を、奉らさし。又熊澤介といふ人の、
 外傳といふ物を、いふと、いづその傍者、いづれ、いづれ、いづれ、
 ぐらうらむ、いづらふ、用おし。いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 と、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 おや、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 ぬ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 ぐらうらむ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、

の、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、

いづれといふもの

物後の、何の中、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、
 を、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、いづれ、

も飾情あがふりるるを引取おを。何まて花と標^{ヒレ}まきまきお好ふ。
きこまじおまて。後のおおりの。かふより。叫わ。細あが。ささ。
るつひし。まじ。バ。叫細あが。て。引る。あ。何海花。お。洗。お。や。
と。お。お。べ。い。た。う。こ。わ。わ。わ。さ。ま。今。お。い。お。ま。う。お。一。ッ。ッ。さ。一。お。
あ。お。も。わ。り。う。ま。お。ま。う。も。ん。お。お。ま。き。し。お。お。の。ま。今。け。お。櫛。を。
物。ま。お。も。お。ふ。あ。お。ひ。く。え。う。本。お。る。ゆ。急。う。り。も。よ。り。よ。か。う。む。と。え。
お。何。も。も。此。湖。月。お。お。は。ま。し。て。い。お。て。お。り。一。ま。く。お。ま。お。の。む。う。く。
と。お。ま。う。お。ま。う。お。ま。う。

大むね

此物語乃おむむひむりより。洗どと。何まど。も。み。お。後。と。い。お。も。
の。う。う。後。を。へ。ま。い。お。づ。お。ま。う。て。い。お。ま。の。つ。ひ。乃。儒。佛。ま。お。お。書。
のお。お。む。ま。ま。ま。も。て。備。ぎ。う。ま。う。る。ハ。信。お。ぬ。一。お。本。ま。お。お。り。う。お。ま。
ま。く。う。お。儒。佛。お。お。の。お。お。の。づ。う。ハ。お。お。る。う。う。る。食。る。飯。も。あ。お。
お。お。お。ま。ま。ま。う。う。ま。ま。て。ま。い。お。ま。お。ハ。お。う。お。お。ま。の。お。ま。お。ひ。
と。い。う。う。異。ち。う。も。の。お。ま。ま。て。物。後。も。又。別。お。物。お。お。り。お。一。つ。の。飯。
の。お。ま。お。お。て。お。ま。お。お。も。い。う。う。う。う。が。お。う。一。か。く。て。お。物。後。も。
く。ら。う。う。が。申。お。も。此。係。氏。の。ま。一。ま。は。ふ。う。う。ん。と。お。お。て。信。お。も。お。
り。ま。お。お。の。う。ハ。お。お。お。お。お。う。く。う。お。お。一。お。お。ま。お。て。お。後。

どし乃おもひまきよきことなる人の心はくわびげ源氏のおぐり
のまことさゆぐくおふしるまをいしるべし今きげこそかきり
おてそのまはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
きぬものぐりおぐりおはまをいしるべしまきよきことなる人の
ぎりりかかきおひまをいしるべしまきよきことなる人の

かかきおひまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
おはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
まきよきことなる人の心はくわび
まきよきことなる人の心はくわび
まきよきことなる人の心はくわび

後念記にいまこの後日記をいしるべし今きげ今見む人おふきこもの

おひまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび

後日記をいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
まきよきことなる人の心はくわび
まきよきことなる人の心はくわび

よの中はあやういしるべしまきよきことなる人の心はくわび

おはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
おはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
おはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび
おはまをいしるべしまきよきことなる人の心はくわび

かちつてさうに女房おのふしきききくおうねんばやうね
る海ついでさうもけつぎりきむらうかおか海きき
ふあにちねるお乃ら方ぬべきおのりまおとんつりぬべ
角巻云々後のおれも先〜にいついづゝ人もけつば若おれなど
ふあさうおきこ先ききしてけりあ〜もの〜さひお〜さひたたり
ぬべらぬと又云ぶおゆ〜ぞ人乃んきの〜ご〜よりたりきるを
おもしつであふ

此おの〜い〜ふ〜き〜おれ〜お〜ど古物種も同ど〜
宿おれ云が歌きけいおねばいけい〜人のお〜むとむり
物種お〜とらるお色人乃〜人〜も〜つや〜〜おひ〜ハ〜お

おらうおらま〜た〜ご〜ありきり〜お身おた〜て〜けりもおひ
あ〜せおひい〜

こはにけしおの中君の古おれおわ〜り〜今お身お〜人おておひ
あ〜しお〜お〜お〜せ〜か〜歌〜と〜女〜の男お〜と〜わ〜ら〜ぢ
お〜てお〜い〜さ〜ら〜け〜ら〜

ま〜さ〜い〜ま〜ふ〜かく〜お〜ぎ〜ら〜〜〜お〜や〜ら〜お〜こ〜い〜る〜か〜ひ〜わ〜れ
を〜お〜ぐ〜ら〜り〜お〜ど〜ふ〜も〜ま〜げ〜い〜い〜さ〜し〜る〜お〜や〜あ〜ん〜糖〜吟〜を〜お〜云〜
若おれ乃らや〜におらるお〜も〜さ〜ひ〜よ〜う〜さ〜や〜ら〜お〜こ〜も〜い〜お〜
こ〜し〜う〜と〜お〜お〜ひ〜い〜つ〜げ〜又〜云〜せ〜り〜川〜の〜お〜ね〜の〜さ〜や〜君〜乃〜女〜一〜お〜お〜
ひ〜う〜け〜る〜な〜ど〜さ〜ら〜〜お〜ひ〜い〜び〜〜〜お〜て〜い〜ま〜〜〜か〜〜お〜い〜ら〜か〜き

したる波はとよくあひよせらるるあつぱりおがりなびく人乃らつ
 まらづらとおもおぞらちきき

あまハ書き君のおしまをあひぬくんに

へあをふいちむうーおづられらうちもきかあのののあ
 夏は橋をえぎかしもののづをふもなるのふおきらりむ人
 のこしをあひぬてまやうおるもふやと先づしがり結てき
 むどりりたくと拍後をよみるんをへくれぎらきれるを今
 のまが身おまきらておろく人のおのちをまもあひや
 己おのが身れ人をもむうーめらるものーあれをまらう
 きらるもあひぬらるもあひぬらるもあひぬらるも

よきる人のら海を入を書法やうまねをち今源氏物後をよめ
 む人のんをへらくおもらうなるべきとあるべしよあつの儒佛
 あのの書法ようとむんをへらうとあるおるものがかし
 さと業式が此拍後をよめる本まいハままとく愛をおかきつくは
 くら波をよめるもうふさといはぬらるゆのあ拍後のら
 を源氏君のおづられ君おがらり結ふまふいひて下ふふの拍
 後の本を波おせらる結ふその注釋ども誤おやくて作り
 ぬられ下おまきもつらるがこら後を今らお結ふ文をまらう
 く引きつぎしらるをまらう釋まらふこらるある後をつく
 らうて此拍がらりよまむ人乃あるべしとその文いらるまらう

おきづる人乃人かどきまておやいつたりおやいひあつめ
家申ふも、こがまよのやうなるはなうりきり見えぬ。

こまのあきおは古相済どとをえあひてのんこ。

住吉の娘よ乃まゝかのぎんぐゆーさ波おがーおろく人あ。

住吉相済をよみて、こがまよ入ふ若きうす波おひ合を結ぶ。

殿も、こまかかふふかや相済もちりつ。は目ふを相済結ぶ。

殿ハ保氏、君しか。家ものごととハ古相済の本^ホどとをいふ。

つらむつ〜。かきも相うるさかりせむ。人うらむむう結せとせぬ
〜ものおき。

こまより保氏、君のおきづるは君おのゝるお相ひいつたりおき。

まがらごの相済も、まふう保さ記相さる。うさ〜ともお
で、おづる。女といふもの人よ、あむむう進んとあふ生れとも
のおとことか〜の〜あひまがわ〜も〜おきて。古相済をいひ
おろ〜結つ〜。ま〜こま〜として。保氏ね〜お下^下おぬく〜。
ま〜ハ保氏相済まよむ人のんふありて。まが〜かくいひおろ〜
〜ハ難^ナがるま〜こま〜つ〜。或はほれも〜。或はおろ〜も
〜して。いひあひきてか〜ま〜いれまのべ〜り。

うらお申おま〜い〜ま〜おろ〜むさか〜。か〜家ま〜ら
お〜ふんを〜。〜を〜か〜結ひ〜。つ〜ら〜きはみ〜と結乃。み
〜ら〜も〜か〜結ひよ〜。〜い〜あ〜ぬ〜。

らしいものかといふことか、
 取べし、まゝに物うらひの
 儀を、まづ、儀のまゝに、
 よまむ、まづ、まゝに、
 又、取よの、まゝに、
 ば、まゝに、まゝに、

の古、相、儀、まゝに、
 と、相、儀、を、め、づ、
 へ、まゝに、まゝに、

ても、この、儀、まゝに、
 を、まゝに、まゝに、
 ら、ふ、まゝに、まゝに、
 相、儀、まゝに、まゝに、
 ま、まゝに、まゝに、
 儀、まゝに、まゝに、
 う、まゝに、まゝに、
 儀、まゝに、まゝに、
 日、まゝに、まゝに、

見せしつゝこそ源氏物語乃まねこ此地がうらハちう物のつら
 き成ちうーしひこをひひとかきこゝものしけるぢやなく
 お別りくくくくくべー。そとくけ地を勧善懲悪
 のよたけおハ好色のひすー先物どつちまむがごとつちあはら
 の洞くてもおべー。地をえてハんうううとこもつちいづ
 う好色乃いまーめおハん。猶おふくさくハつべー。
 又いとまふくきさるかあるんん。おどろくーとちりおー
 くぐ。先おちりきてつづふ又まきーしびぞおくれどぬとまうー
 きふー。つらハなるまどもおべー。
 こそ又地を地つらー。程乃ゆし上のぢあまこつらむく

うハんてあられおちりー。程のゆ。らとハんあおどろくし
 く。まづーおおももももし。先おちりきてぬとまうーまあ
 ーとつくし。らとひまきー。つちまみづくらとんん。ん
 よあせしきこもあはだ。こもおべー。つらとまづー。ー
 おどろくーとまきふハ。今ーしびとげうふんあまき。つらとま
 ものし。おまきとまこも又一あー。地奥ぞとこ。トハ源
 氏地つらうま。うらた地。二くまおちて。そのまのべー。り。二
 くまの上おいつ。おまおちとつらむ。こも。ー。程とま。よ
 む人乃んま感ぎー。ま。もの。わつとまを。あ。せ。ち。り。ん。う。ど
 く。と。い。つ。ま。お。ち。ら。お。の。あ。ま。ま。か。感。ぢ。ま。し。ま。さ。さ。ら。お

いなるおどろく〜ききる〜種じ〜上の一〜この
物産乃本をわて後の一種も〜たれお奥より出〜の〜し
さるおおれおき〜それとふく〜して此物産の中
おさるおどろく〜おさるおむるや〜おさるおの〜きて
し〜おさるおを〜おさるおの〜おさるお〜おさるお
あや〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
ら〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
もの〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
け〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
物産乃本をわて後の一種も〜たれお奥より出〜の〜し

あ〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
り〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
あ〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
お〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
下、心、卑、下、なり。

およ〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
き〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお
〜おさるお〜おさるお〜おさるお〜おさるお

下ふもきく相済をむらうがふほきてよれたぬふのこひ
ぬしむらむらうづう作事此保氏物済を道くく
ちく日本紀をどやとまをわおと思へるふこそ...其の人
うざきうしんこぬらとをうりてその難をのがむむと先ふ
まげうしひおくじ

その人うへてうりたすおひいつくさくともぬたよれたも
わきよとよふあ人のあまはるおもうどまきくにもうぬ
ぬる^{のち}後のせりもいひつへてせまうしきゆぐとんふ
ことぐうていひおきとどやうなるなり

上ふもひまといひてふ此文入つきまうづりうりきや

うおのゆるんも此ふ河のあうるおやわんしよきとて
今らららあおぎぬたをやうおまあはらうりかおとそ阿婆は
こふとたむげやうの御わづらうりたきこも一うおるべしとてこれ
より上お相済をいひおしとて...其のんうらわらぬおま
乃此ふおしとていひおしとてかきよとてあまをんておとまうり
さうしてうしとていひまはつる...ゆりかまおしとてうふらうり
その人の人そとていひよりぞ...家お相済を^{サダ}備えあつとてふいさなる
かしておほくの物がうりけぬぐおる申おおるくの作事よる
おる^{サダ}河うの業おおけお済つらなる下心を破りさむとめおかく
ふまうしとていひまはつる...お乃やふらうしよれたもわきとて

きてよれわきまのきふんわりのよふよふのむらさき
 など何となく此も奥の別あつたさういふがういふあわ
 りがせめてうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 へがうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぶいさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 がうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

たり。相曇をぶくさまざんこのやまもいりてわたりま
 ぶくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 おまうりつゝ早蕨をさう中細をさうさうさうさうさうさうさう
 ようはうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 へさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 又あを後をもちえいさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まるはうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 こようさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ことねがさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ふおのまじきおのこは人なりしつゝまじきまじきものなり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり

まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり
まじきまじきかゝるぬ身はまじきおつゝかゝるまじき人なり

抱ぐりふよせて。まゝもどきま書候ぞ。此もばそくむらぐり。そく
がめあつじと起べし。ゆゑに此抱けり。うき事どもいひあ
業式終がまの何れり。その代り。えらるる。其る。其の人の名
をかうして。あつる。抱う。といふ。うき。むらぐり。あつる。はま。く。ま。人。乃
そ。事。と。い。ね。む。ど。く。は。ゆ。お。中。あ。ま。し。え。あ。り。む。れ。ゆ。く。い
感。ぢ。う。ま。て。ふ。か。が。ま。ま。ぢ。う。ま。ま。人。を。事。決。つ。ら。り。ま。ま。う。ま。い。
ま。人。り。あ。り。せ。つ。せ。て。ん。を。の。べ。ら。る。こ。

ト云ふ事あり。いふよ。これのう。けり。を。え。ら。る。こ。で。

此も抱後。あ。ま。し。い。む。む。と。い。一。人。の。う。か。よ。の。中。あ。あ。ゆ。
よ。き。こ。り。む。ら。り。を。え。ら。る。こ。で。ま。ま。と。あ。つ。ま。し。よ。れ。こ。ど。か。り。ま。つ。あ
となり。ト云。係氏。君。こ。も。お。つ。ま。り。そ。い。あ。ま。ま。ん。と。ま。さ。う。か
も。い。ま。ま。が。や。う。う。ち。あ。ら。う。の。あ。れ。さ。う。え。ま。ま。い。ま。ま。中。の。よ。き。こ
ま。の。う。が。り。決。此。人。よ。ら。り。あ。つ。ま。て。う。ま。り。こ。も。抱。乃。あ。ま。あ。ゆ。ゆ。く
し。と。い。む。人。を。ゆ。く。感。ぢ。う。り。ん。と。あ。あ。り。
人。あ。ま。ま。が。り。む。と。い。い。

次の文をよみて。ふ。ら。い。よ。き。ま。あ。つ。あ。反。對。あ。て。何。き。は。あ。め。り
ふ。ま。い。と。あ。つ。ま。き。あ。ら。ま。ま。い。ま。ま。か。く。い。つ。こ。業。式。終。の。ん。
ら。い。あ。あ。ら。う。ま。ま。て。人。の。あ。ま。ま。あ。つ。い。ま。ま。ら。う。あ。ら。う。あ。
こ。あ。
む。い。ま。ま。ま。ま。その。ま。ま。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

ぬいねき係ども。夢人のつひまきふりつひし。お紫雲をふくみあ
くづたまこころ。ちやさうおぼく。ちやまごてねど。いひうら。ちやど
がぶし。

又あゝにまねれきづ。これに。あしりつづき。と。

わーまことにかあ。だくもよ。のつひ乃。儒佛の虫ねど。おの悪
行を。つひあわ。びげ。おのく。おろ。く。つひり。下。心。未。務。む。
君近。おね。おね。おら。ひ。こ。ま。お。つ。ま。り。ま。ま。を。ま。べ。く。よ。か。く
ぬ。ま。ぬ。う。り。し。ま。り。の。う。ま。け。ら。ち。ま。る。い。人。乃。く。の。つ。ま。ま。り
を。り。ひ。ま。ま。ら。む。乃。ら。あ。く。係。ど。い。ま。ま。む。人。乃。奥
ふ。を。り。く。い。あ。き。ま。る。ぬ。き。づ。く。お。ね。ち。る。お。ま。を。も。書。し。り

こし。人。よ。ま。ま。ご。う。り。し。て。い。い。ひ。き。づ。し。し。ま。す。り。を。い。つ。て。に。て。そ
の。い。ま。し。し。ち。り。し。る。上。ふ。い。つ。ま。ご。ま。も。ち。の。く。ん。と。あ。を。れ。を。え
せ。ま。い。か。が。う。ら。く。く。ら。り。ね。く。く。ま。が。さ。く。ま。の。二。種。は。ま。り
を。ら。ち。ね。よ。れ。ま。か。し。の。き。ま。ぬ。の。二。く。ま。お。し。上。ま。る。ハ。お。後
ま。よ。こ。も。も。ん。だ。い。つ。は。く。ま。も。も。ら。だ。を。い。い。し。が。い。こ。も
川。合。ま。か。む。へ。と。ま。の。よ。ま。し。も。ね。く。れ。に。ま。い。つ。ハ。お。あ。と。あ
ら。む。と。つ。り。し。を。え。ま。し。よ。む。人。の。心。を。感。ぜ。し。ま。ん。と。あ。ま。り
を。ま。は。る。ま。ぶ。く。又。あ。き。ま。る。ぬ。ね。づ。く。ま。ま。さ。る。お。ね。を。い。つ。ハ。お
後。乃。本。ま。ま。し。く。お。ね。い。つ。ま。を。り。く。ぬ。奥。の。ま。ね。く。と。上。お。先。お
ち。る。ま。と。い。ひ。お。づ。う。お。ま。く。し。ま。ご。お。く。ら。お。ま。い。お。を。さ。し。し。り

一 何れいふにいとわしむるを
みるかへついでにけむれかたりし物ぞかへ
そのよきかへつけあきうふはまていひし物ぞかへせ
かたきもふかけついでにわあふもぞかへ
人乃みづせむをけりやうかへぬ。

人のまがひ異物じふえ人のまがひじふて相傳ふは學問乃
こゝろをまていひけりけりやうの書けれ伝ふはまていひし物ぞかへ
ぞえ乃りし物とつらりやうの書けりし物とまていひし物ぞかへ
のつらきとるは文うかきもいふまていひのりりつらりやうの
つらきとるは異物人乃學問の教書の傳ふやうとこそ相傳

のおむしき傳ふやうといはれりつらり異物をいひけりおむし
異國乃書はむもまていひの善悪是非をまていひし物ぞかへ
物のまていひをまていひけり人乃まていひし物ぞかへいひまて
ひて風雅のまていひの詩原のまていひといはれり皇國乃まていひ
なごかへりてあか傳ふおむしけりまていひし物ぞかへいひのま
うまていひし物とつらりやうの書けりし物とまていひのりり
國乃物ぞかへりていひし物とまていひのりりやうの書けりし物
書かへりてあか傳ふおむしけりまていひし物ぞかへいひのま
一くはりし物とつらりやうの書けりし物とまていひのりりやう
乃りし物とつらりやうの書けりし物とまていひのりりやう

おぼしき能おその傍きりまじ

佛のごりきんまじそれおき始つはほも方便といふて有て

うりきい信なき何とていふにたといふまじ佛のしん
まんよりそれぬつはほりそつむいなきまじたておぼしきそれお
いふ方便といふこのあまをまじしていふ人なきふよりてま
おぼろ方便といふまじきも佛のしんまじしんといふて何ぞこ
くおぼろそつむいといふと方便といふたんまじらぬりそつむ
といふも安んじしむいといふまじき方使まき人よりま
つむいもあつむいし下ん上おそつむいといふおぼろをい
くしひませ何れおぼろまじきまじしんといふまじきまじき

おぼろいふまじきまじきよつむいもあつむいもあつむい
まじきつむいといふ人よおのあつむいをあつむいしんといふおぼろと佛
の方便といふまじきまじきまじき

さつむいおきまじきまじきまじきまじきまじきまじき
仏説の方便乃本をいふまじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

方便も方便の能どもおぼろまじきまじきまじき
いひまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

方便と実説との異なるやうな道も、きつまるる道は一つと云ふ
おのゝいさる。

善徳と徳と燃とのへぐさぢんけ人のよにわきまをかりたこ
とらうりなきる。

一つむねとハ昂^チけ善徳と煩悩とをさうといひ、佛の法ハ方便
まぬぐまてうかこふぐやうれこもつらごととまはるるさう
を、実説も同じとて、善徳と煩悩とのへぐさるはさう
説る。一つむねとハつとじまをけといふより、心のこへを徳へ
合せるとして、けハ物^テ善徳と燃とのへぐさるはさう
くこじがらわきるとハ、徳と燃とのよにわきまをかりたこ

くさぬをさるるは、佛説の善徳と煩悩とのへぐさるを説
くわがぶとくし、或人そひきく、物^バ徳と燃とのへぐさるはさう
を、人乃よにわきまをさるるは、徳と燃とのよにわきまをかりたこ
て、漢文の書どとハ、徳と燃とのへぐさるはさう、説く。説く。異
ありといわらう。善^ハ上^ハいづとく、徳と燃とのよにわきまをかりたこ
を、儒佛のよにわきまをさるるは、徳と燃とのよにわきまをかりたこ
そのおもむきとく、徳と燃とのよにわきまをかりたこ。
よといへば、徳と燃とのよにわきまをかりたこ、徳と燃とのよにわきまをかりたこ
よといへば、徳と燃とのよにわきまをかりたこ、徳と燃とのよにわきまをかりたこ

許可渡りきて宗首さまに先くまおとぐく天台法華文
 をせし書とてつゝもいつゝんねむ或時をみたりおほ先阿彌
 とて中くにそとふそむるものしうけ人のんま女の学向
 こそさうちううづらうさるあてまびいゝくおとをぢう
 こをこにそのまをみづくけ日記おもまをくいつゝもの
 をいづてちうまううねるこをばおせせふおつゝハ源氏元乃
 お着るへくちり終おものごりねおふるねき始君おむして
 いくでう佛法乃おとぐく一に奥旨ねどをば引お渡り終そむ此
 物渡りまべうまやうけおつうりけうざるあををまかど
 ぬをや。

○上の件當を引ゆる文の中およねもけきもよおある人
 のうへよきまぬりけうけいよねこのうきりげえといで人うま
 こがむとていあきまぬのえ人乃よまけ一にえかどげかも
 とべう物渡りいつゝよねあきいよのつひの儒佛まどの書に
 つゝ善悪といはどかうざるおとけりま供を物渡りいつゝよまけ
 き渡りけうお儒仏乃善悪とのんねていゝまがおぬおわう
 だ一おげまべうよねあきいよのうへおつゝまのれりま
 人のうへおつゝまのぬとんまどぶのまけりまあううぬおよま
 あきまてまき渡りうゝ一賤きをまうゝ一に昂け物渡りも
 位乃まけ人まよき人といつゝ信まあもぬがうけよま格のよね

こらまはなびりかこもじ又ふかこらわもよにわきまけりいじわも
さうねり又命をく^{トミサカ}蓄え物をゆるすねむハ皆よにすし命み
どかこまづーく衰へ物をうーあふまどるか病災ふどこあけき
るしはて又人のうのまねば衣被稠交ぬ長まどとちがめま乃
うふおのく皆よにけりいこしあふび人のんこまどものこに
まかきうび又おふより事ふらり時ふまごひてよーけりけり
こもまいも人を失まにま物をよくそわをまよーとー^{ヨロイハト}
ほさぬまよーとーまねわつき日やまむやうねるまよーとーその
まにけりハ^{ツツ}熱きものをよーとー^{ツツ}まきゆへ人も^{ヤヒ}書けりよーと
ー^{ツツ}形をまのぶもめも月夜をこらーとーまらもぐいけりおもま

こらまはなびりかこもじ又ふかこらわもよにわきまけりいじわも
さうねり又命をく^{トミサカ}蓄え物をゆるすねむハ皆よにすし命み
どかこまづーく衰へ物をうーあふまどるか病災ふどこあけき
るしはて又人のうのまねば衣被稠交ぬ長まどとちがめま乃
うふおのく皆よにけりいこしあふび人のんこまどものこに
まかきうび又おふより事ふらり時ふまごひてよーけりけり
こもまいも人を失まにま物をよくそわをまよーとー^{ヨロイハト}
ほさぬまよーとーまねわつき日やまむやうねるまよーとーその
まにけりハ^{ツツ}熱きものをよーとー^{ツツ}まきゆへ人も^{ヤヒ}書けりよーと
ー^{ツツ}形をまのぶもめも月夜をこらーとーまらもぐいけりおもま

先んずきかどくしなうしとこまふいもむしハ昔の人の情ふくね
やうかきしむるとの申おも儒佛の善悪ハ合ざるもあわく又
きてより一ハ清浄しきもいふなううふやもくびて儒者を
どの議論のやうかむらぶせまりとるあハねしとて相傳へ相
のつれをちげむいといしふそのまぢあつりてハ儒佛乃
世なりハそむくもあふまぢかそいふ人の情ハ相お感む
る事おも善悪邪正をめぐらる申おもそりあもつるゆふを感
むはじきもどおととも情をあらがくこがふおもまらせぬとつり
ておのづうあつびぐたあしきし感むるこらるものし源氏を乃
くへましともどく増え御月夜もあつが申おもあふんをうきて

を始つハ儒佛をどの道おていもむしハよふ人も好むいみき不
義悪行なれむあふいづりねよれすつらきおもよき人とは
いじごかきまふその不義悪行をうきまふし色もむくもい
もどししともあつひぶねものつらきねあうまうしげへきく
出のて源氏をむむいよれ人乃本うてよき事ねまり
を此もねうへふらとつととて相傳のよむいおしてその
よれわきまハ儒佛をどのあけ善悪とがちりつらきぢらさ
ことしあのもぐひ乃不義をよりとるあつらけそのつら
しハ今もいもむもあつらとむひ乃飛を論むるこハおのづ
うそのうしねまどとねふらうらつらと相おわき物流をま

Handwritten text in a rectangular frame, oriented vertically. The text is written in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, and appears to be a list or a series of entries. The text is:
مجلس اول در بیان احوال و حال
مجلس دوم در بیان احوال و حال
مجلس سوم در بیان احوال و حال
مجلس چهارم در بیان احوال و حال
مجلس پنجم در بیان احوال و حال
مجلس ششم در بیان احوال و حال
مجلس هفتم در بیان احوال و حال
مجلس هشتم در بیان احوال و حال
مجلس نهم در بیان احوال و حال
مجلس دهم در بیان احوال و حال
مجلس یازدهم در بیان احوال و حال
مجلس دوازدهم در بیان احوال و حال

